

## 小田原市教育委員会定例会会議録

1 日時 令和6年12月11日（水）午前9時30分～午前10時00分

場所 小田原市役所 3階 301会議室

2 出席者氏名

1 番委員 柳 下 正 祐（教育長）

2 番委員 益 田 麻衣子（教育長職務代理者）

3 番委員 菱 木 俊 匡

4 番委員 秋 元 美 里

5 番委員 齊 藤 修 一

3 説明員等氏名

教 育 部 長 菊 地 映 江

教育部副部長 有 泉 三裕紀

教育総務課長 岡 田 夏 十

保健給食課長 吉 澤 太 郎

教育指導課長 中 山 晋

教職員担当課長 松 室 裕

教育相談担当課長 松 澤 俊 介

教育指導課指導主事 岩 立 忠

（事務局）

教育総務課係長 三 浦 慶太郎

教育総務課主任 漆 崎 亜結美

4 議事日程

日程第1

議案第23号 令和7年度教育指導の重点について

（教育指導課）

5 議事等の概要

（1）柳下教育長開会宣言

（2）11月定例会議事録の承認

（3）議事録署名委員の決定…2番 益田委員、3番 菱木委員に決定

---

（4）日程第1 議案第23号 令和7年度教育指導の重点について

（教育指導課）

**○教育指導課長** それでは、私から御説明いたします。A3版の資料を御覧ください。

まず、「教育指導の重点」の左側3分の1は、学校教育における目指す子どもの姿「未来を創るたくましい子ども」と、小田原市教育振興基本計画に定めている4つの基本目標、3つの基本姿勢、さらに施策展開の5つの柱を示しています。右側の3分の2が、令和7年度の教育指導の重点となりますが、基となる教育振興基本計画が令和9年度までの計画となっていることから、令和7年度は特に大きな内容変更はせず、教育委員会及び各学校が具体的に推進していく取組の一部を実態にあわせて修文しております。

それでは、主な内容について御説明します。

教育指導の重点の中心に、「社会力の育成」を掲げています。社会力とは、常日頃から教育長がお話されているとおり、子どもたち一人ひとりが自分を輝かせて充実した人生を送り、より良い地域社会を創る力のことです。

この社会力の育成のために「学ぶ力」「豊かな心」「健やかな体」「関わる力」の4つの柱を提示し、目指す姿と方向性を上段に色を付けて示しています。

各項目下段に、教育委員会及び各学校が具体的に推進していく内容をお示ししておりますが、要点を中心に御説明いたします。

まず、「学ぶ力」では、日々の学習指導や学習評価において、子どもを適切に見取り、伸ばすための評価、教育長が言うところの「点から線の評価」を実践するとともに、ステップアップ調査等をエビデンスとした授業改善、小田原の豊かな地域素材を教材とした探究的・創造的な学びの推進、デジタル教科書などのICTの積極的な活用、そして市政や地域課題への関心を高め、自らの意見を述べ、行動していく力を培う主権者教育にも取り組んでいきます。

次に、右に移って「豊かな心」では、人権教育・道徳教育・インクルーシブ教育の推進に当たり、児童生徒一人ひとりに寄り添った粘り強い支援のほか、保護者や関係機関と連携した対応を一層重視してまいります。

また、教職員は、児童生徒のよさや可能性を認め、伸ばし、児童生徒自ら主体的に成長・発達することを理念とする「発達支持的生徒指導」の理解の促進、充実に努めてまいります。

次に、左下の「健やかな体」では、子どもの命・安全を守ることを最優先に考えることを大前提とし、運動の楽しさや喜びを味わうことのできる体育・スポーツ活動、地場産物や郷土の食文化を継承した給食を生きた教材とした食育の充実に取り組んでいくとともに、生徒の活動を確保できるような部活動の在り方についても検討を進めてまいります。

最後に、右下の「関わる力」では、小田原の豊かな自然や産業・伝統文化などを題材として体験的に学び、社会に主体的に参画しようとする態度の育成のほか、国外を含めた多くの人との関わりを設定するなど、国際理解教育にも取り組みます。

以上4つの柱の下に、教育課程の編成や教育活動全般にわたりベースとなる学習指導要領の基本方針や、神奈川県教育指導の重点のうち、本市として重要と捉えている3点、『社会に開かれた教育課程』の実現を目指した『カリキュラムマネジメント』の充実について、地域とともにある学校づくりの推進について、インクルーシブ教育の推進について示しています。

最後に最下段、教職員に求める姿は変更なく「教育への熱意を持った教師」「豊かな人間性を備えた教師」「組織人として機能する教師」としています。

あわせて、教職員の働き方改革推進の取組として、教職員の行うべき業務を明確化し、ICTの効果的な活用を図るほか、「チーム学校」が機能するために、子どもの指導・支援に必要な多様な人材の確保に引き続き努めてまいります。

なお、星印の取組は、学校評価の共通評価項目として設定しています。

説明は以上です。

(質疑・意見等)

**○秋元委員** こちらに記載されている理念については、十分に伝わってきますし、指導方針と子どもの未来を切り開く上で、とても重要で道しるべとなるもので、内容は素晴らしいと思いますが、一方で、より実効性のあるものとして現場で活用できるかということがとても重要だと思っていて、すでに改善や検討はされていると思いますが、目標の具体化、例えば「豊かな心」や「関わる力」に記載されているような理念的なものではなく、それを現場でどう実践するのかという具体例や指導方法が事例であると分かりやすいと思います。また、指導の成果を可視化できたら子どもたちの成長がしっかり捉えることができますし、改善につながると思います。教育現場で容易に活用できる具体的な指針となることが重要だと思っています。理念先行にはならず、現場でこの理念をどう具現化するかというところに非常に力を入れていった方が良いと思います。

**○柳下教育長** これは大事なことなので皆さんに御意見を伺いたいと思います。私が最初に話をさせていただきます。

今、秋元委員が言われたことは、私は大変重要なことだと思っています。それは、「社会力の育成」ということをずっと言っていますので、先生の頭の中にも「社会力」という言葉は入っていると思います。ところが、その社会力というものを国語、算数、理科、社会と同列に並べて、それを育てると勘違いされている方も中にはいます。「社会力」というのはとても大きな概念で子どもたち一人ひとりが充実した人生を送り、より良い地域社会を作る、そういう力です。そのために、ここにあるような「学ぶ力」「健やかな体」「豊かな心」を育てていきます。そこで大事なことは関わりの中で育てていくということです。そのような大きくくりがあって、国語、算数、理科、社会もそこに向かってどう学んだら良いのか、子どもたちがどういう風に成長したら良いのかということを先生方一人ひとりがきちんと見取って、学習の本質を学べる子ども、学び合える子どもを育てていくということが大前提となっています。そのために、一つひとつの教科、あるいは道徳や総合学習などそれらの目標と子どもがそれに関わってどう成長したのかという見取りをきちんとしていかなければいけません。学力で言うと、全国学力・学習状況調査のようなその年度の何年生がどういう状況なのかという力が分かっても、それはその1点だけです。「ステップアップ調査」のような調査で、どういう風にその子が伸びてきたかということを見るのが大事です。それに代表されるように学びというのは、先生が一人ひとりを共感的に理解して、点から線の指導と評価をしていくということがとても大切だと常に言っています。学ぶ力というのは、学びの本質があるため、外れたものを学んでもいけません。物語を学ぶときには、その物語の良さ、その物語の中にある大事な言葉、大事な文章を落としてはいけません。それを自分で自由に読むのは、豊かな読みではありません。勝手な読み方になってしまいます。そうではなくて、しっかり本質を捉えて導いていくのが先生の役目となります。学ぶ力では学習の本質を捉えるということが大切になってきます。そして「健やかな体」というのは、これは生涯スポーツ

です。それと共に、「食」というのが大切です。私は以前「食力」という言葉を自分で作っていましたが、それは自分の体に合った食を食べることや、「食」とはどうあるべきかそういうことをきちんと学んでいき、身に付けることができるような「食」を考えて実行していくような子どもになってほしいということです。エディブルスクールヤードという言葉もありますが、自分で作ったものを自分で食べるようなそういうようなことも大切だと思います。「教育」は「理解」と「体験」がとても大切です。「豊かな心」もとても大切で、自分の言葉で言う「感性」だと思います。「感性」というのは、心に感じて思う力です。力というのは「数値が高い」とかそういうことではなく、楽しいことを楽しいと感じ、悲しいことを悲しいと感じ、人の痛みが分かるようなそういう心を育てていくために、体験していくことが大切です。それを大きいくくりで関わっていくために、人やものや様々な出来事と関わる中で、関わったものを共感的に理解してより高まっていく力が必要だということがここに書かれています。そういう大きいくくりを校長会で話をして、それを学校の先生方にもぜひ理解していただきたいと伝えています。

**○益田委員** 秋元委員がおっしゃったことはそのとおりだと思っています。これは大元の理念のため、これが校長先生に伝わり、校長先生から現場の先生に伝わる中で、どういう風にしっかり伝わっていくかというところです。一旦校長先生のところに届いたときに、校長先生なりにまた学校目標を作って、学校を運営していくと思いますが、その時に伝え方もありますし、受け取る側の資質や思いでまた変換されていくと思います。そのため、難しいと思います。学校の見学に行くと、学校目標を見せてもらいますが、それが現場の先生にどこまで伝わっているのかというところはいつも思っているところです。「社会力」というところだけでも、教職員全員にしっかり浸透するようになってほしいと思います。

**○菱木委員** 自分が先生であった場合、「社会力」を「関わりの中で育てていく」という概念をどう捉え、どう実践していくのかと考えるとかなり難しいと感じます。学校では校長先生や学年主任の先生が目標を作り、現場の先生が実践をしていくことになると思いますが、社会力の育成のための「学ぶ力」「豊かな心」「健やかな体」「関わる力」の4つの柱をすべて同時に具現化するということは難しいので、学校ごとに毎年重視する事項を決めて具現化し、翌年に評価をして改善する」を繰り返していくアプローチになると思います。小学校は6年間、中学校は3年間ありますので毎年バージョンアップを繰り返していけば目標に近づけると 생각합니다。「関わる力」では「体験的に学び、社会に主体的に参画する」「国外を含めた多くの人との関わりを設定する」等が実践項目として掲げられていますが、まずは友達や先生との関わりを大事にすることが基本と考えます。今、職場ではトラブルが起きないように職員同士でお互いの良いところや悪いところを正直に言い合うという時間を設けて職員間の風通しを良くする時間を設ける企業があります。これは「大人版の関わる力」を強くすることに繋がっていると思いますので、小学校や中学校でも5人あるいは6人のグループでお互いの長所・短所を話し合っ、その後友達同士の関わり合いやクラスの雰囲気はどう変わった等の結果を分析して、一つずつ積み上げて具現化していくという方法もあるかと思うので、先生方にも色々考えて頂けたらと思います。

**○齊藤委員** 秋元委員がおっしゃっていたことが本質で、定性的な目標に対して、定量的な

目標をどう掲げていくのかということで、様々なステークホルダーの方のモチベーションにつなげていくということだと思います。民間でよく取り入れるやり方としてO K R (Objectives and Key Results) というものがあります。目的を分解して定性的に掲げられているというものがこの指針に当たるものだと思いますが、ここに定量的な目標を設定できるか、それを組織全体でどう追っていくかというポイントが少し不足しているように見受けられます。そのため、今後令和9年度までに目指す姿にたどり着くために、来年度以降に一度教育に関わる皆さんの全体像を見たときに、教育委員会として定量的に追えそうな目標に何があるかということ洗い出して、「学ぶ力」「豊かな心」「健やかな体」「関わる力」の4つの力に置きそうかどうかというところをグルーピングしてみるのが良いと思います。教育委員会の意思決定として大きいところは、企業であれば経常利益を今年は10億円達成しましょうとか、前年対比で売り上げを120%にしましょうとか、それに対して各部署が目標を達成するためにどうしたら良いかということを考えて、それにまた細かい目標を立てていきます。それに近いやり方でそれぞれの4つの領域に対して定量的な目標を各学校と一緒に追えそうな数値がどういうものなのかということを考えてみるということが一つの方法として良いと思いました。そこで二つ思うことが、点から線へというところですが、民間経営だと業績を追いつつ、従業員の満足度も追います。働いているみんなが幸せな気持ちになっていないのであれば業績は追えないですし、人事的な問題を抱えてしまいますので、まず働いている方々が幸せになるためにはどう計ったら良いかというところで、従業員に毎年アンケートをとっています。それと同じ考え方でいくと、そこで教育を受けている子どもたちの満足度を計る、心の状態を測れる、健やかな体の状態を自分で意識して測れる仕組みがあるのか気になりました。例えば、小学校であれば1年生から6年生までの過程で、自分自身がどういう状態で点から線で成長してきたかというように、自分自身が認識してそれに対して保護者や教職員の皆さんと一緒に見ながら振り返れるような施策があるのか教えていただきたいです。もう一つが「公民連携」ということが「基本姿勢」の3つ目の枠に書いてあり、今後重要だと思っています。教育委員会や教育機関だけで全てを解決していくことは難しい経営資源の状況にあると感じています。そのため、民間の力を頼むということをもっと開いてやっても良いと思います。例えば、課題解決型で教育委員会はこういう問題を抱えています。例えば学校給食を300円で作るのは限界ですとなったときに、民間企業で原材料を補填していただけた企業はありませんかということ課題として投げかけて、オープンに募集を募るということをどんどんやっていったら良いのではないかと思います。そういうところの食料事情や食育の事情や一次産業、三次、産業に長けた企業が小田原市や二市八町にも多いと思いますし、今はSDGsなどの取組に力を入れている企業も多いですし公募型で、プロジェクト型で、課題解決型で企業の協力を募るということをやってみても良いと思います。点から線へというところで子どもたちの満足度を計る指標というところでどういうことをやっているかというところと、公民連携の今後の考え方の2点をお伺いしたいです。

**○教育指導課長** 2点目からですが、公民連携は必要だと感じているながら形として動いていくことが難しいところもあります。子どもに関することなので、そこをどう調整していくのか、考えながら進めていかなければいけないところです。部分的には子ども主導ではありません

すが、小田原版STEAM教育や地域の校外学習を通じながら地域の企業やその他関係機関とも関わりを持っていくということはできる範囲で進めているところではあります。あとは、齊藤委員が言われたのは教育委員会としてマッチアップするということだと思いますので、その辺りをまた検討していきたいと思います。

1点目については、子どもたちの伸びや変容をどのように測っていくのかというところですが、機械的に見ることは難しいところではあります。小学1年生からキャリアパスポートというものを作っていて、「1年生でこんなことをやった」など1年間のまとめをして振り返りをしながら中学3年生、さらには高校に向けてつないでいくというものはあります。子どもたちも1年間で終わることなく自分たちの学びの足跡を残すことが大切なことを教員も承知をしているところで引継ぎの中でキャリアパスポートの活用などもしています。

**○齊藤委員** キャリアパスポートについて、教えていただきたいのですが、同じフレーム自分自身の成長を測るフレームの中で毎年自分で評価をするというイメージでしょうか。

**○教育指導課長** 学力ではなく、行事の中で自分が頑張ったことなどを記載するものです。1年生と6年生とでは記述の量や視点は全く異なりますので、そこを振り返ることで自分の成長の足跡を見ることができるところにはつながると思います。

**○齊藤委員** 2点目の公民連携のところですが、企業の目線からすると営利事業だけで教育の何かに関わりたいという企業はだいぶ減ってきているのではないかと思います。どちらかというと自社のSDGsの達成に向けての取組として教育に関わりたい、次世代の子どもたちを育む基盤に会社として投資をしたい、SDGsで言うと16番だと思いますが、そういう目的の会社も増えていると思いますので、その観点でマッチアップを考えたら良いと思います。

**○柳下教育長** 私は公民連携ということがとても大切だと思っています。子どもの安全見守りシステムもそうだと思いますが、様々な企業との協力は積極的にやっていった方が良くと思っています。1番下に記載されている「教職員の資質・能力の向上」についてですが、「組織人として機能する教師」とあります。ただ組織の中の目標が分かっている、自分がやっていることは目標のうちのこれだなと思い、ただ仕事をこなす人は、それは組織の中の人です。そのためにどういう知恵を出していったら効果が出るのか考え、しっかりと目標を理解して周りの人と知恵を出し合って、成果を求めていく、そういう人が組織人だと思います。そのためには、様々な情報の共有やコミュニケーションが大切で、人と人との関わりが大切になってきます。以前、校長だった頃、学校をきれいにしようというグループがあり、掃除の時間はこれ以上増やせないが、子どもたちにどうしてもらったらよいかを考えることも大切ということで、「金曜クリーン」というものを考えていました。これは「金曜日に机をきちんとそろえて帰りましょう、自分の周りのごみを一つずつ拾って帰りましょう。そうすると月曜日に登校したときにきれいな教室が迎えてくれ、1週間気持ちよく勉強や友達との活動ができます。」というものです。そういう知恵を先生はたくさん持っています。そういう知恵を出してもらおうということが組織人として機能するということでもありますし、「創造的」から「創発的」になります。そういう人間関係を作っていくことが大切だと思います。

(その他質疑・意見等なし)

採決…全員賛成により原案のとおり可決確定

---

6 柳下教育長閉会宣言

令和 7 年 1 月 29 日

柳下教育長

署名委員（益田委員）

署名委員（菱木委員）